



『コミュニティ・ビジネス』

細内信孝著

中央大学出版部

定価 2,000円(税別)

Books

団塊の世代に生まれた私たちが、目指し、成し得た社会が、永遠に続くとは漠然と思っていたが、どうやらそうではないらしい。私たちが創り上げたものは、どこからみてもまるで金太郎飴のように同じである。偏差値の高い大学を出て、大企業に就職さえすれば将来は約束された時代、今、就職難でフリーターは150万人、いきなりやってくるリストラ、そして平均寿命はどんどん伸びてゆく。そして「モノ」の規制緩和だけでなく「心」のバリアフリーも着実に進んでいる。多様化してきた社会の人々の個性を大事にし、誰もが元気になる社会をつくるためにどうしたら良いのか、行政の財源も限りがあるのに、このまま行政、企業依存でよいのか、ならばどんな方法があるのか昔のように地域のことは地域で企業戦士だった夫やりストラされた人を地域に呼び戻すには、などと考えてみたが、ピタリする言葉が見当たらなかった。その時、この本で「コミュニティ・ビジネス」という言葉に出会い、その言葉を使った途端、すべてがいきいきし、スマートに、そしておしゃれに表現出来たのである。著者は住

民が安全で快適な環境のもとに自立しいいきくらしていくにはコミュニティ・ビジネス(以下CBという)が大切な要素である事、コミュニティの活性化無くしてわが国の住民自治はなし得ないと言っている。そしてCBの効果として、自己実現をめざすその地域特有の社会問題の解決文化の継承・創造 経済的基盤の確立と述べており、このようにCBは職住接近の人間らしい働き方や暮らし方を可能にするのではと語りかけている。私は、コモンズの市民対応理事であるが、今年度の事業のひとつとしてコーヒースロンを行い、「コミュニティ・ビジネスの可能性を探る」シリーズを開催しているのは、この本の影響である。兵庫県では「コミュニティ・ビジネス調査報告書」を発行し、その推進を図る動きがでてきている。「多様化した世の中をどうにかしたい、人間らしく誰も元気に過ごせたいの」と思っている方、是非一度この本を読んでください。何が覚えてくるはずですよ。

小鷹美代子

事務局 日誌

石川 雅子



やっと創刊号発行となりました！スタッフの皆さん、大変お疲れ様でした。ありがとうございました。さて、私石川に「事務局日誌」の原稿依頼がきまして、何を書こうかな？と考えましたが、今回は自己紹介をさせていただきます。

えーと、この業界に入ったのは、一昨年の5月。もともと横田さんとは「バリアフリー倶楽部」からの知り合いで当時無職の私に「手伝ってほしいことがあるんだけど」と声をかけていただきました。それまでは、フツのOLを5年間しており、NPOなんて全く知らな

かったのです。最初は週2、3日くらい通っていた私が、今は専従スタッフとして働いています。と言ってもまだまだ仕事も思うようにいかない日々ですが、会員や役員の皆さんはじめ多くの方々に支援していただいています。「NPOをはじめると応援する人を増やす！」というミッションを達成するために、これからも私なりに頑張っていきたいと思っています。

事務局へのご不満、ご要望等は何でもおっしゃってください。皆さんのコモンズですから。